

第19回 日本再生医療学会総会
中高生のためのセッション

参加される中高生・高校生が教員あるいは保護者とともに再生医療への理解を深め、自己の将来、科学の真理探求、発見、社会への貢献など広い視野に立ち、研究者の卵として自由な発想で創造することを目的とします。

アドバンストコース (3月13日)

[1]~[4] 全てに参加します。チームとして申し込みください。
募集：6チーム (1チーム：3~5名)
申込：8月1日~10月15日

[1] 課題発表*

「幹細胞/再生医療研究 + ○○○○ = □□□□ の実現」
各チームが将来実現したい□□□□について、科学的・社会的な重要性や必要性を具体的に、理論的に考え、現状の幹細胞/再生医療研究に何(○○○○)を加えることが必要かつ最適であるのか発表します。

[2] 講演
演者：高橋 淳
京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門 神経再生研究分野 教授

[3] ランチョンセミナー
演者：片野 尚子
東京医科歯科大学 統合研究機構 再生医療研究センター 助教

[4] 学会総会 理事長講演・会長講演の聴講 (仮)
演者：澤 芳樹
理事長 大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学 教授
演者：福田 恵一
会長 慶應義塾大学 医学部 循環器内科 教授

作文*

応募：8月1日~10月15日
課題：「わたしたちが咲かせる花」
概要 「第19回日本再生医療学会総会のテーマ「科学の力で再生医療を創花する」は、未来に向かって動いていく花をイメージし、再生医療学会の未来だけでなく、医療・社会そして人類の未来に花を咲かせることをテーマとしています。しかし、花を咲かせることは簡単ではありません。シスターの海辺翔子さんは自らの経験と教員としての思いを込め「咲かれた場所咲きなさい」という本を書きました。ここでは過酷な状況を生きていく人々に対する励ましと勇気が含まれています。皆さんは、生きていく未来にどんな花を咲かせたいと考えていますか。苦しむ人に寄り添うやさしさとともに命の重さや人間の生き方と向き合いつつ、これからの医療の姿について皆さんの思いを述べてください。

11月中旬に選考し、受賞者はアドバンストコース内にて表彰します。
また、金賞受賞者にはご朗読いただきます。

ベーシックコース (3月14日)

[1]~[4]のそれぞれで参加者を募集します。個人・グループまたは学校単位で申し込みください。
申込：11月1日~12月15日

[1] 講演
演者：汐田 剛史
鳥取大学 大学院医学系研究科 遺伝子医療学部門 教授

[2] ランチョンセミナー
演者：小林 英司
慶應義塾大学 医学部 臓器再生医学寄附講座 特任教授

[3] ポスター発表*

① 生物の範囲内で「再生」のキーワードに広い意味で繋がるもの
② 再生医療などをキーワードとしたアンケート調査など

[4] 学会見学ツアー (企業展示のみ)
再生医療に関わる100社以上の多彩な企業を見てみよう。

* 校外発表を希望します。
ベーシックコース・アドバンストコースにおいて、応募数多数の場合は抽選させていただきますのでご了承ください。

対 象：高校生・中学生
参加費：無料

申込み・詳細は「学会総会 HP」へ
http://www.congre.co.jp/jsrm2020/session_jhs.html

企画・進行：石原 研治 (茨城大学 教育学部)、川上 雅弘 (京都産業大学 生命科学部)
鈴木 一史 (茨城大学 教育学部)

後援 (予定)：国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
神奈川県教育委員会、横浜市文化観光局、川崎市教育委員会
埼玉県教育委員会、栃木県教育委員会、群馬県教育委員会
茨城県教育委員会、愛知県教育委員会、満都市

イラスト協力：江戸川学園取手高等学校2年 近藤 彩乃

小林英司の失敗自慢

慶應義塾大学 医学部 臓器再生医学寄附講座 教授

小林 英司

中高生の諸君に今思い出しても恥ずかしい私の失敗談をしましょう。私は、クマが出るような新潟の田舎に生まれました。家業は、江戸時代から続く醤油作りです。小学校時代は、毎日のように川に魚を取りに行ったり、山にカブトムシを取りに行ったりしていました。いじめっ子と言われるほど嫌な奴ではなかったと思いますが、どもりの同級生の真似をしてからかっていたら自分がどもりになりました。母に正座させられ国語の本を暗記するほど読んだら治りました。中学校時代は、田舎でしたが成績はトップ、スポーツもできていたのに、生意気で人気がなく生徒会長に落選しました。そして生意気度がもっとひどくなり、越境して高校に行きました。高校時代は、片道2時間かけ通い、クラブ（剣道）活動と学業が両立できず、成績が急降下しました。‘剣の道’を究めたためか2年の‘浪人’になりました。やっと入れた医学部では、楽しくてよく遊び、再試の連発で低空飛行を続けていました。そんな時、家業を継がないこと許してくれた父は、台風でペチャンコになった醤油工場を立て直し、新工場完成前に急死しました。医師になることの自覚が貧弱だった自分が父の死を見つめているうちに、外科医になりたい思いが確実になり、いつしか臓器移植などの先進医療研究の道に入っていました。失敗しても辛いことがあっても、自分の夢が持てたら前に進めます。そんな自慢話を聞いてください。

.....

Q. 夢をお聞かせください。

移植可能な臓器を造ること。

Q. 中高生へひとことお願いします。

失敗や辛いことは自分がやりたいことを見つけるための肥やしです。やりたいことが見つければ、それが自分の進む道となるでしょう。

略歴

1982年	自治医科大学 卒業	新潟県の地域医療に従事
1991年	自治医科大学 外科 助手	
1992-1994年	オーストラリア・クイーンズランド大学外科	留学
1995-2000年	自治医科大学 臨床薬理学教室	助教授
2001-2009年	同大学 分子病態治療研究センター	臓器置換研究部 教授
2003-2009年	同大学 実験医学センター	センター長
2009-2014年	株式会社大塚製薬工場	特別顧問
2014年- 現在	慶應義塾大学医学部	臓器再生医学寄附講座 特任教授
	東京医科歯科大学	客員教授
	自治医科大学	客員教授
	旭川医科大学	客員教授
	日本獣医生命科学大学	客員教授
	ドイツ・アーヘン工科大学医学部	客員教授
2012年	Sun Lee	賞
2018年	Lars Erik Gelin	賞